

# AI Technology in Communicative English Classes

## 生成 AI の使用実態と意識に関する調査

—発信型英語の授業における活用の現状と課題—

藤滝香織

徳島大学教養教育院

### 1. はじめに

ChatGPTをはじめとする生成 AI の出現は、教育現場にも大きな影響を与えている。大学教育では、レポート作成や英語学習、プレゼンテーション準備などの場面で AI を活用する学生が増加している。しかし、その使用方法や目的、AI に対する理解の程度は学生によって大きく異なり、教育の現場ではその実態を十分に把握しきれていないのが現状である。

本調査では、2025 年度後期に開講している発信型英語の授業における生成 AI 使用の現状を把握し、学生がどのような目的で AI を使用しているのか、また科目や授業形態によって使用の仕方に違いがみられるかを明らかにすることを目的とする。さらに、学生が生成 AI に対してどのような意識や期待をもっているのかを明らかにし、今後の教育実践における AI 活用の在り方を考察する。

### 2. 調査の概要

本調査は、教養教育院が全学の学部生向けに開講する英語の必修科目の中でも自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力をみにつける「発信型英語」の授業における生成 AI の利用実態を明らかにすることを目的として実施した。対象は、学部3年生までの学生38名であり、その中には留学中の特別聴講生や日本語以外が母語の学生も含まれている。対象学生は異なる学科・専攻に属し、学習目的や言語能力にも幅があるため、学部レベルでの多様な傾向を把握することができた。

調査は、2つのクラスを通して行い、主に対面授

業の時間内に実施した。また、1名のみ同期型オンライン授業（同時双方向型授業）にて回答を行った。調査期間は2025年10月27日から29日までの3日間であり、各クラスにおいてアンケート記入を行い、その場で回収した。調査形式は紙面によるアンケート方式で、回答は記名を任意とした。

### 3. 調査方法

アンケート内容は、生成 AI の使用実態および学習への影響を把握するための11項目で構成した。主な設問は以下の通りである。

(1) 生成 AI を使用しているか（使用していない場合はその理由）(2) 使用期間および使用のきっかけ (3) 使用目的 (4) 使用していない場合、今後使用してみたいと思うか (5) Communicative English class（発信型英語）の授業関連では、他の授業と異なる使い方をしているか (6) 使用に対する意識や評価 (7) ChatGPT のような AI（チャットボット）について、何か知りたいことはあるか (8) 自由記述による意見

回答データは統計的に集計・分析するとともに、自由記述の内容を整理・分類して学生の意識傾向を抽出した。

### 4. 結果の概要

38名のうち、生成 AI を使用していると回答した学生は全体の約95%であった。使用していない学生の理由は、「情報が正しいかどうかわからない」「著作権の問題などがある」などを挙げた。生成 AI 使用している学生の約69%は ChatGPT を主に利用しており、有料版を使用している学生は

約 9%いる。使用のきっかけとしては「友人におしえてもらった」「先輩にすすめられた」などが多いが、「コロナ禍で家にいてネットで見つけた」「授業で AI を使う機会があった」「生協開催のパソコンセミナーで使用」などの回答もある。

使用目的については、「体調不良を相談」「旅行のスケジュールを組む」「料理のレシピ」「敬語の使い方」といった私生活で利用する他、学習面では「数学」「プログラミングのエラーの原因を見つける」「コードを書いてもらう」など専門の授業に関する具体的な活用がある。学習全般では「調べ学習のときに会話をしながら使用」「レポートの手助け」「プレゼンフォーマット」などがみられた。一方で **Communicative English class** (発信型英語) の授業に関しては、使用している学生と、あまり使わない、使用していない学生に分かれた。

使用している学生の理由として、インターネット上で検索するより気軽に早く質問ができる AI 使用の特性を挙げ、知らない単語の意味をたずねたり、英訳のために使用したりする学生が一定数存在する。さらに、英語の聞き取りの際に音声文字起こしを行ってから、日本語訳までを活用する例もある一方で、発信型英語の授業課題にはあまり使用していないという回答もあった。

このように AI の使用に対する意識としては、「便利で学習の助けになる」とする肯定的意見が多かった一方、少数ではあるが AI 使用に懸念があり「使用するつもりはない」といった意見や、AI を使用している学生も授業科目、学生によって使用頻度や使い方に差があることが明らかになった。

「ChatGPT のような AI について何を知りたいか」という自由記述の設問では、「効率的に使っている人の使い分け方」「出力結果を正確にするための命令文の書き方を知りたい」といった効果的効率的な使い方に関するものの他、「AI の特性を理解したい」「現在の開発段階」「主な動作アルゴリズムについて知りたい」なども挙げられ、学生が AI リテラシーに広く関心をもっていること

が示唆された。

## 5. 考察およびまとめ

以上の結果から、学生の多くが生成 AI の利便性を理解しながらも、大学の学習における適切な活用については個人差があることが明らかとなった。**Communicative English**(発信型英語)では、知らない単語の意味を知る、英訳以上に活用する傾向もある一方で、実際の使用やその活用方法については個人差があると考えられる。

AI を活用した学習は、学習者の自律性を促す可能性をもつが、同時に依存的な使用を防ぐためのリテラシー教育が不可欠である。今後は、学生が AI を適切に使いこなし、自らの学びを深化させるための教育的支援の在り方を検討する必要がある。

本調査の結果は限定的な規模での分析に基づくものであるが、大学英語教育における生成 AI の使用実態と学生の意識を把握する初期的知見として有用である。今後は対象を拡大し、授業デザインや学習成果との関連をさらに分析していく予定である。

## 参考文献

Jaiver, & Moorhouse. (2024). Developing Secondary School English Language Learners' Productive and Critical Use of Chat GPT. *TESOL Journal*, 15(2).

<https://doi.org/https://doi.org/10.1002%2Ftesj.755>

Kohnke, & Zou. (2025). The Role of ChatGPT in Enhancing English Teaching: A Paradigm Shift in Lesson Planning and Instructional Practices. *Educational Technology & Society*, 28(3), 4-20.

[https://doi.org/https://doi.org/10.30191/ET.S.202507\\_28\(3\).SP02](https://doi.org/https://doi.org/10.30191/ET.S.202507_28(3).SP02)